

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長

(公 印 省 略)

病害虫発生予察注意報について

平成 28 年度病害虫発生予察注意報第 11 号を発表したので送付します。

平成 28 年度病害虫発生予察注意報第 11 号

- 1 作物名 さとうきび
- 2 害虫名 カンシャワタアブラムシ
- 3 発生地域 沖縄群島、宮古群島
- 4 注意報発令の根拠
 - (1) 沖縄本島における 3 月中旬の調査の結果、新植夏植ほ場における寄生株率は 3.2% (先月 1.4%、
平年 0%) で、発生ほ場率は 82% (先月 63%、例年 0%) と例年より高かった。県予察ほ場におけ
る寄生株率は 25.7%であった。
 - (2) 宮古島における 3 月上旬の巡回調査の結果、新植夏植ほ場における寄生株率は 58.6% (先月
23.9%) で、発生ほ場率は 100%であった。病害虫防除員の報告によると、伊良部島、多良間島で
も発生が多かった。
- 5 発生生態および被害
 - (1) 無翅虫が綿状の白いワックスを背面から分泌し、さとうきびの葉裏に密な白いコロニーを形成する(図
1、2)。
 - (2) 成虫が幼虫を産む胎生である(図3、4、5)。
 - (3) 秋に有翅虫が収穫ほ場から新植の夏植ほ場に定着し、翌春の発生源となる。
 - (4) 本種は高温に弱く、木陰のススキの葉裏で夏を越す。
- 6 防除上注意すべき事項
 - (1) 大発生すると吸汁害およびすす病により、さとうきびの生育が遅延するため、早期防除が重要である
(図6)。
 - (2) 薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。
 - (3) 収穫予定のさとうきびほ場や近隣作物へ薬剤がドリフト(飛散)しないように注意すること。
 - (4) 捕食性天敵のマエウスジロマダラメイガの密度が高い場合は、捕食による密度低下が期待できる(図
7)。
 - (5) 多発生時は有翅虫が絶えず移動分散するため、一斉防除を行うことが望ましい。



図1 コロニー



図2 寄生された株



図3 成虫(無翅虫)



図4 成虫(有翅虫)



図5 幼虫



図6 葉に発生したすす病



図7 マエウスジロマダラメイガの幼虫